
春雷

高橋なつみ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

春雷

【Nコード】

N3581F

【作者名】

高橋なつみ

【あらすじ】

春の到来に、せっかく開いた桜の花びらを、一夜にして散らしてしまう春の嵐。それは、人ならざるもののしわざ――

この世界には、何とたくさんの、美しい色が溢れているのだろう。

悠久なる時の流れの中、朽ちることのないこの身で、我は空を駆け巡る。

山野を駆け巡る。

人の身が、我の姿を見ることは叶わぬ。

何故なら、この身に纏いし雷が、人の目を眩ませるから――

我に名はない。

ただ、人界には、我を「ぬえ」と呼ぶ群れがある――

冬――氷界の女王は、命の眠りを誘うため、世界を冷たく白い吐息で覆いつくす。

木々も花も獣も、大地の懷で時を待つ。

そうして、やがて氷界の女王が去り、陽の女王がこの地を訪れた。

木々は、遠来に気配を察し、真っ先に目覚める。小さな命を、その腕に芽吹かせる。

女王の羽衣がなびく。

柔らかい熱をはらんだ陽の光が、「全ての命よ、目覚めよ」と呼びかけた時、世界に色が生まれた。

はかなくも優しい色で、その身を飾る桜の木々。彼女達は、陽の女王の呼びかけに、誇らしげに腕を広げている。

「さあ、私をご覧になって」

「この世界を、私の色で染め上げましょう」

「この地に生きるものよ、さあ、私の下へいらっしやい」

その夜、月明かりに浮かぶ桜を、雲間から見下ろす一匹の妖怪がいた。

獅子の体に蛇の尾。

金色の長いたてがみが、風にたなびく。

その眼光は、雷と同じ光。

彼は、朽ちることのない命を持つもの。身を包む雷が、人目をくらませる——ぬえ。

桜の誘いに、ぬえはいつしか夜空を翔ける。

その足が空を蹴るたび、身にまとう雷が、夜の闇を引き裂く。

響き渡るあの轟きは、月の悲鳴であろうか。

春の雷鳴は、嵐を呼び覚ます。

力ずくで叩き起こされた風は、苛立ち、荒れ狂う。

桜の花びらは舞い踊り、やがて夜空を桜色に染め上げた。

「ごめんよ。ただ、君をそばで見たかったんだ」

獰猛なその顔から、ポトリと落ちた涙一粒。

「いいですよ」「いいです」「これでいいです」

あちこちの桜の木々から、優雅な声が鈴のように重なり合う。

「花の命は短いもの」

「すでに散りゆく宿命にあったもの」

「最期に見せましょう」

「月夜の桜吹雪を」

「地に降り積もる、桜色のじゅうたんを」

春雷の過ぎた朝、桜の花びらのじゅうたんに、大きな獣の足跡を見つけたら……それは「ぬえ」の足跡かもしれない。

じゅうたんを、そつと踏みしめた名残かもしれない。

<了>

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3581f/>

春雷

2010年10月31日04時58分発行